

“はたらく”を助ける
デジタルグッズ

急なテレワーク
通話環境は
ヘッドセットで改善



快適なビデオ会議環境へ、なければスマホの付属イヤホンでも？

新型コロナウイルスの影響でテレワークが浸透し、TeamsやZoom、WebEX、Remoなどでビデオ会議や音声チャットをする機会が増えてきた。ノートパソコンについているWebカメラ、マイク、スピーカーを初めて活用したという人も多いのではないだろうか。

しかし、相手側の音声が良く聞こえなかったり、自分の音声が相手側に思うように聞き取ってもらえなかったりという経験をした人も多いはずだ。パソコン搭載のスピーカーは出力が小さく音質があまりよくなかったり、マイクと口元の間が離れているために音声を十分拾ってくれないことがあるからだ。ビジネスの話をするのなら、そうしたトラブルは避けたい。

この問題解決に役立つのがヘッドセットと呼ばれる機器だ。ヘッドホンとマイクを組み合わせた機器で、相手側の音声を耳元で聞くことができ、口元のマイクで自分の音声をしっかり拾って相手に届けてくれる。

接続方法で分けると、パソコンの音声入出力に接続するタイプ、USB接続するタイプ、ワイヤレスタイプがある。接続が簡単なのはUSB接続タイプだ。ロジクール「H390」はUSB接続タイプのヘッドセットで、マイクには、周囲の雑音を最小限に抑えるノイズキャンセリング機能が搭載されている。たとえばビデオ通話をするとき、静かな場所では問題なくても、周囲に家族がいるとそのしゃべり声や生活音によって自分の音声を上手く拾ってくれないことがある。ノイズキャンセリング機能付きマイクはそうした場面で役立つ。



ロジクール「H390」。ノイズキャンセリング機能付きマイクを搭載する。ケーブルの途中にあるリモコンでボリューム調整やマイクのミュートができる

ワイヤレスタイプにはBluetooth接続のものと、2.4GHz帯の無線を使ったものがある。マイクロソフト「Surface Headphones」は、Bluetooth接続の製品だ。スピーカー部分にアクティブノイズキャンセリング機能を搭載するので、周囲の騒音が大きい環境でも相手側の音声を聞き逃さなくて済む。ノイズキャンセリング効果の強弱を調整でき、周囲の音をマイクで取り込む外音取り込みもできるので、たとえば仕事に子供が話しかけてきても、頭から外すことなく聞き取って対応できる。

“はたらく”を助けるデジタルグッズ



マイクロソフト「Surface Headphones」。イヤークップ部分でボリュームやミュート、ノイズキャンセリング効果の調整などの操作ができる

こうした USB 接続やワイヤレス接続のヘッドセットは、他にも多数ある。価格帯は幅広く、ビジネス向けのものなら数千円で購入できるが、テレワーク需要の急激な増加で 2020 年 4 月現在、入手困難な状況が続いている。代用品になるのは、ゲーミング用のヘッドセットだ。パソコンでオンラインゲームなどをするときに、一緒にプレイしている他のユーザーと会話をしたり、あるいはゲームの中で忍び寄る敵の音を聞き分けたりといった用途で使われる。ビジネス向けのものに比べて外観が派手な製品が多いが、使い方は同じだ。

ゲーミング用ヘッドセットも入手困難なら、スマートフォン付属のイヤホンを使うのがいいだろう。スマートフォン付属のイヤホンには、通話用のマイクがついていて、ヘッドセットとして利用できる。3.5 mm ミニプラグが付いていることがほとんどなので、これをパソコンの音声入出力端子（ヘッドセット端子）に取り付ける。マイクはケーブルの途中についているリモコン部分に内蔵されていて、小さい穴が開いていることが多い。使用するときは音声を拾いやすいように、その穴を口元に近づけて会話する。

カメラがないパソコンにはWebカメラ

カメラやマイクがついていないパソコンでは、マイク内蔵の Web カメラを追加する。これも入手困難な状況が続いている。お互いの顔を見てコミュニケーションをとる方がよりスムーズになる場面もあるので、できるなら入手したい。



エレコムの Web カメラ「UCAM-C750FBBK」。500 万画素のマイク内蔵 Web カメラ。ノートパソコンやデスクトップパソコンのディスプレイに取り付けられ、平面にも設置できるスタンドがついている

拡張性を高めるUSBハブ

最近、薄型で拡張端子の数が少ないノートパソコンが増えている。そこに自宅のテレワーク環境を改善するため、ヘッドセット、Web カメラ、マウス、キーボードなどを次々接続していくと、USB ポートが足りなくなってしまうことがあるだろう。そんな場合に有効なのが USB ハブだ。特に USB Type-C ポートのあるノートパソコンなら、そこに接続して USB ポートの数や HDMI 出力などを増やせるドッキングステーションタイプの USB ハブを用意すると、拡張性を一気に高められる。

各社から発売されており、備えている端子の種類や数はさまざま。自分に必要な端子が揃っているものを選びたい。たとえば有線 LAN を利用したいのなら、有線 LAN ポートがついたものを、メモリーカードを読み書きしたいのなら、メモリーカードスロットのついた製品を選ぶ必要がある。大きさもさまざまだが、自宅だけでなく持ち歩いて外出先でも使いたいのなら、コンパクトな製品がいい。

ベルキン「USB-C マルチメディアハブ」(F4U092btSGY) は USB Type-C 接続の製品で、USB Type-C、2 つの USB Type-A、SD カードスロット、HDMI 出力、有線 LAN ポートを備える。約 135g と軽く、持ち運びやすい。



ベルキン「USB-C マルチメディアハブ」。拡張端子が USB Type-C ポートの 2 つしかないようなモバイルノートに取り付けて、拡張端子を増やすことができる

急にテレワークに取り組むことになり、自宅のパソコン環境に不満を感じている人も多いだろう。使い心地のいいマウスやキーボードを取り付けて入力環境を改善し、外付けディスプレイにより見やすさを改善し、ヘッドセットや Web カメラで通話環境を改善し、拡張端子が埋まってしまったら USB ハブで拡張性を改善し、と方法はいろいろある。自宅でも集中して快適に仕事ができるように、必要な部分から改善していこう。

【湯浅英夫/IT・家電ジャーナリスト】